

平成 28 年度第 1 回研究評価委員会 議事概要

日 時：平成 28 年 5 月 26 日（木）10:00～17:30

場 所：道総研プラザ 1 階セミナー室

委員長：富田 房男

副委員長：田村 亨

委 員：東 司

下澤 盾夫

新田 恒雄

福田 正己

船水 尚行

（三浦委員は所属機関理事会のため欠席）

道 総 研：理事（研究企画担当）

研究企画部長

研究企画部副部長

研究企画部企画 G 主幹（企画）

研究企画部知的財産 G 主幹（知的財産）

尾谷 賢

竹内 徹

曾根 宏之

萱場 隆昭

北口 敏弘

1 開会（10:00～）

- ・挨拶（富田委員長）

2 ヒアリング

・戦略研究（中間）

【戦略①：地域・産業特性に応じたエネルギーの分散型利用モデルの構築】

【委員】 戦略研究として、何を実現しようとしているか明確にして欲しい。

【委員】 地域におけるエネルギー施策、そこに企業をどう呼び込むか、使えるような形で仕上げで欲しい。

・重点研究（中間）

【重点⑥：土壌凍結深制御技術を活用した畑地の理化学性改善による生産性の向上】

【委員】 積雪量の予測は難しくそれに伴う土壌凍結深制御も難しいので、ある年は上手くいったが上手くいかない年もある、そうならない様な道筋を考えて欲しい。

【重点⑦：樹木内部欠陥を非破壊測定する装置の開発】

【委員】 説明者が原理を理解していない。工業試験場と連携を。

【委員】 特許のため資料が限定されているが、我々委員には守秘義務が課されているため、隠さずに原理やデータについて説明をするべき。

【重点⑧：カラマツ中大径材木による心持ち平角材の利用拡大技術の開発】

【委員】 材を利用する建築側の意見とコストとのバランスを考慮して欲しい。

【重点⑨：道産カンバ類の高付加価値用途への技術開発】

【委員】 研究のマイルストーンを明確に。スケジューリングを。

【委員】 ブランド化することが大事で、それに向けて高付加価値にして欲しい。

【重点⑩：じゃがいもの自動芽取り・傷み除去システムの開発】

特になし

【重点⑪：積雪寒冷地におけるコンクリート劣化の分析評価技術の開発】

【委員】 成果の達成見込みということで、凍害劣化予測モデルの姿が見えるようにして欲しい。強度との関係を。

【重点⑫：魚貝類の加工・保存に伴う「におい」発生要因の解明と抑制技術の開発】

【委員】 過去の研究成果と今回の研究で得られた成果を区別して欲しい。

【委員】 官能評価について、パネラーは学生ではなく、この魚貝類を売りたい人たちを考えて母集団を吟味して欲しい。においを鑑定できる研究者の導入も考慮して。

【重点⑬：日本海沿岸域における過去最大級津波の復元：13 世紀津波と 1741 年渡島大島山体崩壊の津波による浸水実態の解明】

【委員】 山体崩壊だけでは当時の津波を説明できないのでは。

【委員】 堆積物調査の結果も見せて欲しい。

3 研究評価

・戦略研究（中間）

【戦略①：地域・産業特性に応じたエネルギーの分散型利用モデルの構築】

【委員】 地域におけるエネルギーの使い方、作り方についてどの様にするかを誰がどう決めるかも含めて、そのシナリオも含めてこの戦略研究の中で用意して欲しい。

【委員】 方向性をキチツとして、何を目的にやっているかを明確にしてやって欲しい。

【委員】 北海道の地域エネルギー戦略を提案することを目標として、その先行事例である自治体と導入方策を地域と一緒に実践して成果を出して欲しい。

【委員】 エンドユーザーを意識した計画を作れば、自ずと戦略が見えてくる。

【委員】 集住などの提案にあたっては、計算上の数字だけでなく、方策も提案して欲しい。

【委員】 自治体担当者が興味を持つ様な選択肢を提示して欲しい。

【委員】 北海道全体のエネルギー施策に資する様な出口を見つける様にやって欲しい。

【委員】 各研究項目を連携させて総合化する研究の体制をよく考えて欲しい。

・重点研究（事後）

【重点①：採草地における植生改善技術の体系化】

【委員】 資料が読みにくく、調書の記述が不適切。専門家以外が読むには難しい書きぶりだった。

【委員】 概ね良好に出来ていると思う。マニュアルの作成が大事なので、皆が利用できるものに。

【重点②：飼料自給率向上を目指した牧草・とうもろこしサイレージ給与による牛肉生産の実証】

【委員】 内容の妥当性のところで、必要な項目の検討が行われたか不明で、説得力がない。移行の可能性を実証するという点で、一例でも挙げれば成果は上がっているが。

【委員】 これからもっと質を高める方向へやっていただきたい。

【委員】 畜産農家が飼料基盤を持てるように、しっかり伝えていって欲しい。

【重点③：海岸防災林の津波減衰機能を発揮させる林帯整備・管理方法の開発】

【委員】 一定の効果があることは明らかになったが、これだけで津波を防ぐということではなく、防災以外の価値も含めて、他の施策と組み合わせさせていくように普及をして欲しい。防災林だけで防災するというような誤解を招かない様に。

【重点④：低コスト地中採熱システム及び温泉排湯等の熱回収システムの開発】

【委員】 中間評価の時の意見に対する対応が書かれていなかった。

【委員】 大企業向けの技術開発ではないので、対象をしっかりと見て（技術普及などを）進めていって欲しい。

【重点⑤：食品混入異物検出および品質評価のための分光イメージングセンサの開発】

【委員】 実証試験ができなかったが、実証化されれば良い技術になると期待。

【委員】 実証試験を進めていって欲しい。

・重点研究（中間）

【重点⑥：土壌凍結深制御技術を応用した畑地の理化学性改善による生産性の向上】

【委員】 今増えてきているから時宜を得た研究なんだ、ということでは遅すぎるので、先を行って欲しい。

【委員】 シミュレーションをキチンと北見に当てはめて欲しい。

【重点⑦：樹木内部欠陥を非破壊測定する装置の開発】

【委員】 説明者が原理を理解していない。工業試験場とキチンと連携を取ること。

【重点⑧：カラマツ中大径材木による心持ち平角材の利用拡大技術の開発】

特になし

【重点⑨：道産カンバ類の高付加価値用途への技術開発】

【委員】 ブランド化に期待。

【委員】 目標達成の見込みを c から b へ変更。

【重点⑩：じゃがいもの自動芽取り・傷み除去システムの開発】

特になし

【重点⑪：積雪寒冷地におけるコンクリート劣化の分析評価技術の開発】

特になし

【重点⑫：魚貝類の加工・保存に伴う「におい」発生要因の解明と抑制技術の開発】

【委員】 官能試験が非常に大事で、実際に食べる人の身になって。

【委員】 これから食品は官能試験が非常に重要になってくると思う。官能のプロを、人材を作ることも必要かもしれない。

【委員】 官能試験でも統計的にキチッとやることと、定量的な答えが出るプロの鑑定士の両方必要では。

【委員】 達成目標が機器分析で 50%減という設定は如何なものか。官能評価を主に考えて欲しい。

【重点⑬：日本海沿岸域における過去最大級津波の復元：13 世紀津波と 1741 年渡島大島山体崩壊の津波による浸水実態の解明】

【委員】 政策決定に影響を与える様な進め方が大事。

【委員】 シミュレーション手法の妥当性について不安。フィールド調査とシミュレーションの両方をやることはいい点。もう少し頑張る。

【委員】 フィールド調査を第一に整理し、どこまで言えるかを整理して欲しい。

【委員】 この技術はすごくいい。

4 報告

- ・平成 29 年度重点化方針（案）
- ・平成 27 年度経常研究等の事後評価
- ・平成 24 年度終了課題で追跡調査が必要とされた課題について

5 その他

6 閉会